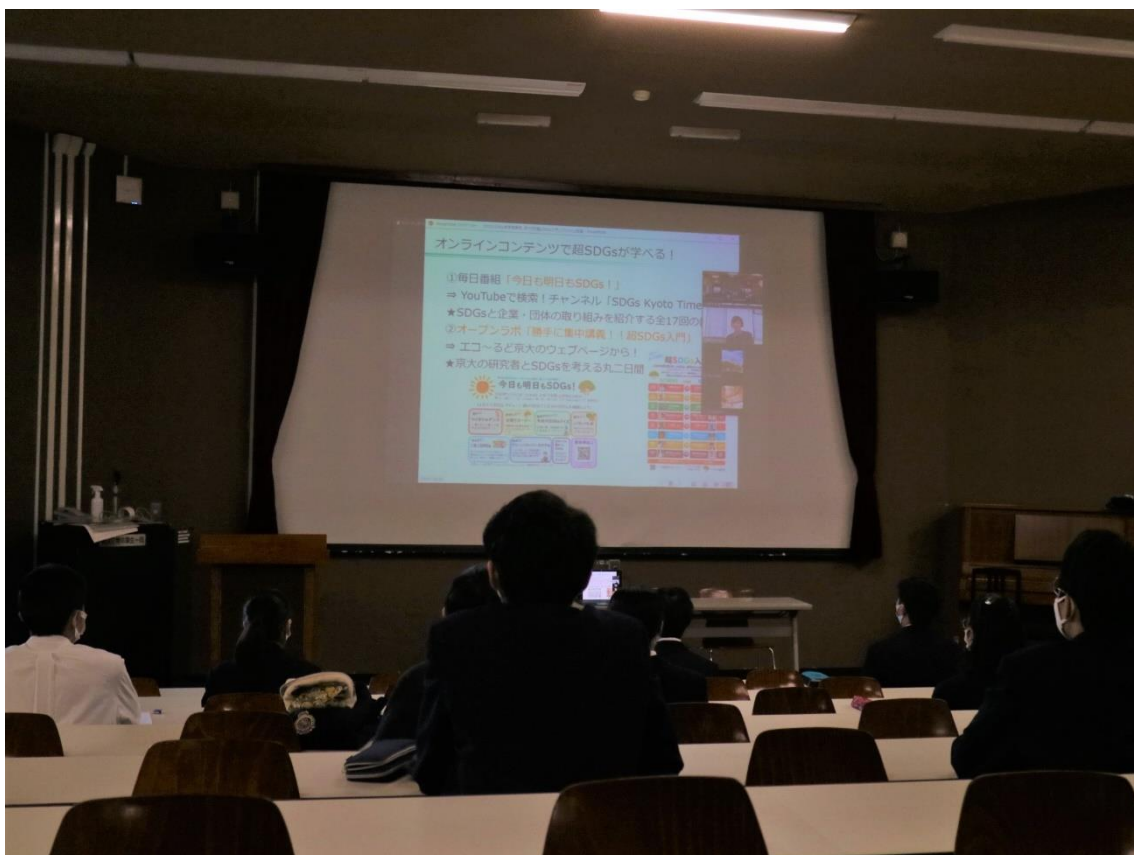


## 第23回 お仕事塾 「京都大学大学院生に学ぶ」開催。(12月4日(金))

京都大学が高大接続・高大連携活動の一貫として全国的に展開している「学びコーディネーター事業」に申し込んで京都大学大学院生による「第23回お仕事塾」が開催されました。京都大学によるこの出張授業は、今年で4年目。毎年京大ならではの切り口で、非常に「おもしろい」授業を展開していただいております。

今年はコロナ禍でのオンライン授業。京都大学大学院 工学研究科の安藤 悠太氏を講師にお迎えし、「京大式『超』SDGs 入門」というタイトルで高1・高2を対象にお話いただきました。



京大の環境系団体「エコ〜るど京大」で活動が続けられてきた安藤氏は、独特の切り口でSDGsについてお話してくださいました。

SDGsについて一定のご説明をされて後、「みんなは、『これって理想的すぎない?』と思ったり、違和感を覚えない? もし違和感を覚えたら、それを大切に聞いてほしい」、と高校生達が自らの先入観に「?」を抱くような導入から始まって、「国連が決めた考え方を鵜呑みにしてはならない、たとえば、トレードオフを考えたら全部の達成は難しいのでは? 『誰1人取り残さない』とは実はみんなを同じ方向に向かわせていないか?」、など、SDGsという目標を持つ問題を考えながら、鳥瞰的に物事をとらえていくことの大切さを指摘されました。そうした上で、「持続可能性」は最大の学際融合研究であり、SDGsを土台にす

れば様々な論議ができる、そのようにディベートではなくディスカッションを重ねていきながら未来を切り開いていくことができる点で、人類最大のフロンティアと言える、と締めくくられました。

生徒たちの感想には「SDGs を否定的にとらえたことなどなかった。しかし、このように違う視点で考えることで新たな目標を考えることができるのではないか。自分の考えを見つめ直すとても良い機会になった。」というようなものもありました。

年齢も近く、親しい口調でお話くださった安藤氏。生徒たちは全く新しいものの見方をすることの大切さを学ぶことができました。鳥瞰的に、総合的に物事を見る。この姿勢はどのようなことにもとても大切なことです。刺激的なご講演をどうもありがとうございました。

